

声を出すことの重要性について Vol.2

(スポーツ鬼ごっこ女子日本代表(No.15)、新宿スポーツ鬼ごっこ部主宰) 宮嶋 恵子

キーワード: スポーツ鬼ごっこ、声

■研究目的

スポーツ鬼ごっこにおいて、選手だけでなく応援も、音量やリズム（または単語）によっても、試合での連携に限らず動きに影響があることを数値的に調べる。

■研究背景

チーム競技であるスポーツ鬼ごっこにおいて、選手同士の声出しは連携を図るために重要であることは当たり前のことではあるが、それだけでなく動きにも変化が出て試合結果に表れることを目の当たりにした。

毎年開催されるスポーツ鬼ごっこ都道府県選抜大会で、団体加盟している東京都スポーツ鬼ごっこ連盟として東京都選抜選手の支援をしている。そこで感じるのが、年々他県に水をあけられていること。たしかに、他県の練習量やスター選手の差から来る伸び率は高く、それは環境の差でもある。一人一人の運動能力は、まだ遜色無い。しかしもう、一人一人の運動能力だけでは上位のキープも難しくなっている。立ち上がりの遅さや踏ん張り時でのおとなしさは、年々の試合結果に表れている（連続して2位止まりであったところから、今年は決勝トーナメント初戦敗退）。

他県との最も大きな差は、放つエネルギーや勢い等の、発することや表現することだと感じている。穏やかさや多様性は東京の特長で大事な面でもあるが、勝ちたくても腹に抱えた思いだけでは足りない。更に勢いやがむしゃらさを体現して外に放出することが彼らには重要だと考えた。その手段が「声」だと考えた。

ディフェンスの大人たちが前線の背中を押すような鼓舞する声、スピード感と高い音量の応援の声、これらが存分に出せた試合では、明らかに100%、120%の力が発揮されていた。元気だけでなく、プレーへの集中力も高めたのではないかと。次の試合では先の試合に比べると選手も応援も声は少なく、敗退という結果に表れた。

声を出すことは誰でも出来る、全力を出し切ることはできる。恥ずかしいとかうるさいとかいうような感情で止まるのはもったいない。声を出すことの重要性を数値的に明かすことで伝え、鬼ごっこの結果に結びつけたい。また、それはただスポーツで試合に勝利するだけのためではなく、発することや表現することで新しい何かをそれぞれに手にすることが出来、楽しさをより強く深く感じるためである。

■研究方法

リズムと、これらに対する運動量等の数値を計測する。

iPhone アプリ「BPM-Control」でBPM（リズム）を測定。得点までの秒数を計測。

今回は、三宿こどもアスリートクラブの応援による得点への効果を計測した。

■分析・考察

参考…有名な曲のBPM

U.S.A : 140 / ウルトラソウル : 128 / 勝手にシンドバット : 140~147 / かくれんぼ : 180

計測したもの : 第2回大人のスポーツ鬼ごっこ全国大会 三宿こどもアスリートクラブ vs pref. Kanagawa 前半戦

三宿vsKanagawa	1点目	2点目	3点目	4点目	5点目	6点目	7点目	8点目	平均
BPM	190	184	197	197	201	189	197	196	193.88
得点	○	×	○	×	○	○	×	○	-
得点までの秒数	17.66	22.40	20.90	11.95	22.20	21.63	21.01	14.02	18.97
コーラス数	1.5	2	2	1	2	2	2	1.2	1.71
Kanagawa vs 新宿スポーツ鬼ごっこ部 (応援は2~3人の声援程度)									
得点までの秒数	72.25	32.61	23.77	39.41	28.72	27.30	-	-	37.34

三宿こどもアスリートクラブの応援BPM : 平均 193.88

応援1コーラス秒数 : 約 11 秒

得点までの秒数 : 平均 18.97

コーラスの区切りで得点になっているケースが多い。

比較として、同対戦相手 pref. Kanagawa vs 新宿スポーツ鬼ごっこ部 (応援は2~3人の声援程度) 前半戦の得点までの秒数を計測したところ、30~70 秒前後でばらつきがみられた。

これにより、応援のリズムの速さと長さは、得点の速さ・タイミングにも影響があるとみられる。

■引用

第2回大人のスポーツ鬼ごっこ全国大会[00027] - YouTube

BABYMETAL 「かくれんぼ」 - YouTube

■課題・展望

声の音量・単語・音質・声以外の音なども測定していく。

機材、測定、集計 (協働者の大募集)